

編集後記

「古典学の再構築」ニューズレター第6号をお届けします。今号は、総括班研究、調整班研究、計画研究、公募研究の平成11年度研究成果を特集として組みました。これで、各分野での研究の実態がかなり明らかになってきたように思います。また、前号に引き続き、上山先生のご協力を得て、先生との対談第二弾を掲載することができました。

本特定領域研究には、これまで殆んど相互交流がなかった、様々な文明圏の研究者が集まっています。一年前、この特定領域研究が本格的に始動した時、正直なところ、対象とする文明圏も言語も異なる古典研究者が集まって果たして「古典学の再構築」という目標のもとにまとめられるのか、個人的には不安がありました。しかし、その不安もこの一年で次第に薄らいできたような気がします。高度に専門化した他分野の研究を理解することは依然容易ではありませんが、古典研究を軽視する現代の風潮に共同で対処しなければならないという点では、共通の認識が生まれてきたように思います。次年度では、この認識を深めると同時に、古典研究の使命 ミッション を明確にして「古典学の再構築」の存在意義をより強く世に問う必要があるように思っています。同時に、古典研究の恒久的な研究基盤の整備についても真剣に検討を始めなければなりません。本号に掲載されたこの一年間の研究成果をご覧になりながら、これらの点についてもお考えいただければ幸いです。

終わりになりますが、年度末のご多忙の中執筆の労をとってくださったすべての方々に心から御礼申し上げます。

平成12年3月

徳永 宗雄